

## 草加発・紙リサイクル共創モデル実験

埼玉・「県南ゾーン」広域連携を目指して

～地域循環共生社会づくり～



要・ロゴ使用許可申請

2025年 月 日

# 目次

---

- ① 啓発活動のストーリーイメージ
- ② 啓発活動の多様な協働体制イメージ
- ③ 草加市の強みを生かした循環モデル
- ④ 当面の啓発活動イメージ「雑がみさまを探せ！」を軸に
- ⑤ 草加市・第二次環境基本計画との親和性
- ⑥ 草加市・SDGs 未来都市計画との親和性
- ⑦ 期待される成果イメージ
- ⑧ 本提案への思い
- ⑨ 将来的な啓発活動の広域展開への期待

## (参考)

- ・ 雑がみさまを探せ！（雑がみ回収促進社会実験）
- ・ 紙リサイクルの重要性
- ・ 紙リサイクルとSDGs
- ・ Towards 2030 & Beyond ・ 古紙センターPDCA

# 1. 啓発活動のストーリーイメージ

各自治体では、ゴミ焼却施設の更新・統合や最終処分場キャパの課題が顕在化しつつあり、**資源循環型モデルの更なる推進**が急務。

本提案は、草加市を始め、**各自治体が有するポテンシャルを最大限**に活かし、**「人・資源・地域経済」が循環**するローカル・エコシステムの推進を目指すもの。

紙リサイクル（特に雑がみ）を中核とした地域共創モデルを推進し、**「環境」「教育」「地域経済」**の3分野を横断的に結び付けることで**「見えるリサイクルの輪」**を目指す。

導入に際しては、**既に草加市が有する**地域資源、制度、ネットワークを**最大限活用**しながら持続可能な紙リサイクルモデルを**「啓発活動」を通じて「可視化」**する。

(起) 紙ごみや雑がみをめぐる課題の再認識

(承) 草加市、県各自治体がこれまで積み上げてきた積極的施策と地域資源の可視化

(転) それらを有機的に統合し、**地域全体の参加型**で展開する循環モデルづくり

(結) その成果が県民生活の質を高め、**埼玉ブランドと環境施策の発信力**を高める

# 1. 啓発活動のストーリーイメージ

**資源循環を共創の中核**主体として、雑がみ回収・利用を地域コミュニティに根付かせる。

**多様な生活者・事業者・行政を結び**、その成果と意義を可視化・共有することで、持続可能な地域共生圏の形成を目指す。

3つの軸を有機的に構造化する。

## (1) 「見える化」×「つながる化」

自治体や企業、団体との共創事例を公開し、「つながり」の存在を社会に共有。

## (2) 参加共感型コミュニケーション

情報の一方通行脱却「わかる・できる・続ける」体験を設計。

## (3) 地域コミュニティ内経済・価値の共創

地域の循環共生圏、地域経済や自治体の課題解決と一体化するメッセージを意識。



## 2. 啓発活動の多様な協働体制イメージ

### 行政

各行政（廃棄物、資源リサイクル関連、福祉、教育委員会等）：施策調整、拠点整備、学校授業導入、公益施設運営

### 教育機関

小中学校、高校、大学（独協大、文教大など）EMS活動、新入生環境授業、ボランティア活動、PBL型地域参加

### 福祉・高齢者団体

就労支援B型事業所、社会福祉協議会、老人クラブ等：拠点運営補助、見守り交流

### 企業・商工会

スーパー、包装印刷、食品、信金、運輸等：店頭広報、ポイント制度連携、雑がみ袋広告、事業系雑がみ回収、SCCI連携

### 市民団体

PTA、NPO、環境ボランティア：地域拠点協力、イベント運営、住民啓発

### メディア・研究機関

地元新聞社、TV、SNS、大学研究室等：広報支援、効果測定、全国展開モデル評価

### 静脈・製紙産業

県南ゾーン周辺の製紙工場、古紙問屋、回収収集業者：雑がみ受入、回収・品質管理、搬送

### スポーツ団体（少年・プロ）

少年野球団・サッカー団等：集団回収、資源回収協力、啓発活動、保護者との家庭連携、エリア内のプロ球技チーム連携

### 需給両業界団体

古紙再生促進センター関東地区委員会、関東商組（埼玉支部）、回収団体：活動全般支援

### 3. 草加市の強みを生かした循環モデル

#### 環境施策の先進性

温暖化対策や資源循環、環境教育を統合的に推進し、県民参加型施策や拠点整備により、地域特性を活かした先進的な環境行政を展開。

#### 地域内処理体制

エリア周辺圏内の5製紙工場の存在に代表される地域内の古紙利用体制が整っており、紙資源を地産地消。

#### 豊富な地域教育資源

高等教育機関を始め、小中高・大学・高齢者団体など多世代を巻き込める地域教育資源が豊富。

#### 地理的優位性

埼玉・県南ゾーンを中心とした、人口集積地が隣接、連携しやすい地理構造や交通のアクセス優位性、物流ネットワーク。



製紙工場・地域内処理体制イメージ

埼玉・県南ゾーン地域の自治体は、人口集積が進み、東京の都市圏に隣接しつつも、歴史ある市街地と住宅地が広がる中核都市。可燃ごみに含まれる紙類（特に雑がみ）の分別は引き続きの課題であり、資源化率の向上と焼却コスト削減対策の余地がある。また、市民活動や学校教育、地域コミュニティも活発であり、共創的な啓発活動のポテンシャルを秘めている。

本モデルでは、回収された雑がみを地域内で選別・加工し、連携可能な製紙工場にて再資源化する“紙資源の地産地消”を再確認することで、輸送コストや環境負荷の軽減を図ると同時に、地域内経済の循環性を高める仕組みを充実化。

新規設備や格段の追加投資を前提とするのではなく、すでに草加を始め埼玉・県南ゾーンが有する地域資源、制度、ネットワークを最大限活用しながら、段階的かつ持続可能に展開する**啓発モデルを可視化**。

## 4. 当面の啓発活動イメージ「雑がみさまを探せ！」を軸に（2025～26年度）

### 雑がみ啓発と学校教育との接続

市内・小学校において紙リサイクルに関する啓発活動「雑がみさまを探せ！」を通じた出前授業やワークショップを実施。「子供から家庭を変える、社会を変える」児童や保護者の家庭内分別を促進。

### エリア内の製紙工場群との連携

日本製紙・草加工場を始め、埼玉・県南ゾーン及び隣接する地域には紙リサイクルの地域内処理・利用が可能な、5製紙工場の存在があり、それらとの連携を通じた、紙資源リサイクルの地産地消を推進。

### スポーツ団体との連携

スポーツ少年団の資源回収活動協力、運動と公共活動の融合を図る。集団回収活動の活性化、世代間交流の機会にも繋げる。また、県内のJ・B・T・WEリーグチームとの連携を通じ、試合時の「雑がみさまを探せ！」啓発キャンペーンを図る。

### 市イベント・施設に於ける啓発活動

多くの県民が参加する、市民イベント、祭り、環境フェアやリサイクルプラザ、公民館などを通じた「雑がみさまを探せ！」の啓発、地元キャラクターとの連携を通じ、一人ひとりの参画意識醸成を図る。

### 大学生ボランティアとの連携

独協大、文教大の環境活動団体などを通じた学生を募集、「雑がみさまを探せ！」運動の支援を通じた持続的な啓発活動の組織力強化、学生自身への社会課題解決体験のきっかけとする。

### 地元企業との連携による資源循環

大規模商業施設、商店街店舗を通じた、地域ポイント利用・認証制度（「草加リサイクル応援店」等）による消費者との接点強化を推進。企業の紙袋への「雑がみ回収に利用」を訴求する表示協力。

## 5. 草加市・第二次環境基本計画（第三版2024～2027）との親和性

### 低炭素社会の推進

本環境基本計画（以下「計画」）が掲げる施策「低炭素社会の推進」では、家庭ごみ焼却に伴うCO<sub>2</sub>削減もカギとなる。本モデルが軸とする「雑がみの掘り起こし」は、紙類という高い資源価値を持ちながら焼却されている分を直接的に資源循環に転換するものであり、脱炭素政策とごみ減量の両面での効果が期待され、行政コストの低減にもつながり得る。

### 市民とともに環境まちづくり

計画の基本目標に掲げられる「すべての市民とともに進める環境まちづくり」は、多様性のある包摂型の仕組みづくりを求めている。本モデルは、学校や地域団体との連携による環境教育など、社会的多様性も念頭に置いており、「分かち合いと支え合いの地域づくり」の理念を実装する現場施策を意識している。

### 資源循環・市民協働型

「3R・資源循環の推進」では、分別率の向上と分かりやすい収集体制の構築が求められている。本モデルは市民や事業者、大学等とのネットワークを構築することで、行政単独では達成困難な「多層的な分別の仕組み」を目指す。共創型のごみ減量戦略として、市の中長期環境政策を支える実働ユニットの役割を果たし得る。

### 次世代を担う人材育成

計画は「環境教育・学習の推進」を重視し、市内大学との連携や学びの場づくりを位置づけている。本モデルは、学生が地域の紙リサイクル啓発・企画・現場支援に参画する仕組みを備え、環境人材の育成と地域実装も視野に入れており、若者が草加を誇り、課題解決に関与し、地域と共に未来を描くイメージもある。



参考：第二次草加市環境基本計画（第三版）

本基本計画は、第四次草加市総合振興計画(2016～2035)期間に連動。4年毎の見直し。

## 6. 草加市・SDGs未来都市計画との親和性

### つくる責任・つかう責任 (目標12)

未来都市計画（以下、「計画」）は「市民・事業者の主体的な分別・資源循環行動」を推進の柱とする。本モデルは、雑がみ等の埋もれた紙資源を市民・企業・学校の協働で掘り起こし、都市型の回収・活用システムを進めるものであり、計画の「持続可能な資源利用」と「ごみの発生抑制」に直結する実装モデルといえる。

### 脱炭素・気候変動対策との連動

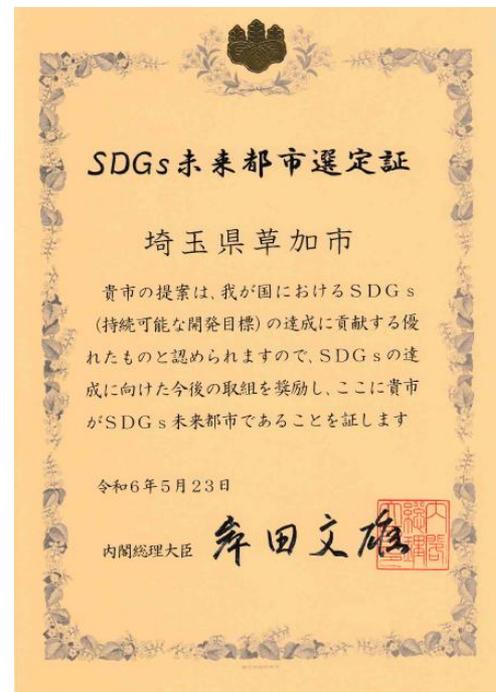
計画では「温室効果ガス排出量削減」「地球温暖化防止行動の地域実装」を主軸とする。本モデルでは、紙資源の焼却回避によるCO<sub>2</sub>削減や、エリア内の製紙工場でのマテリアルリサイクルと結びつけることで、物流・処理面でも脱炭素につながる。「地域主導型GXの体現」として計画の思想に資する。

### 産学官連携による担い手育成

計画では「大学等と連携したSDGs学習・行動の場づくり」が重点施策とされ、獨協大学や文教大学との包括連携が示されている。本モデルは、大学生・高校生の啓発活動参画を通じて、世代を超えた実践的な環境学習と分別意識の醸成を促進し、未来都市計画の「担い手育成」や「行動変容」の実効手段となり得る。

### 包摂的な地域共生まちづくり

計画では「多文化共生」「高齢者・障がい者への配慮」「地域コミュニティ再生」を通じた共生社会を柱とする。本モデルでは、多様性を念頭に置いた、啓発や、様々な地域拠点をベースに、包摂的な市民参画を促す。「市民の多様性を力に変える社会づくり」の実践例となり得る。



SDGs未来都市選定証

「大人から子どもまで、市民一人ひとりが自ら考え行動したくなる！」持続可能な住宅都市モデルの実現を目指すエコシステムの構築～だれもが幸せなまち 草加への挑戦～

## 7. 期待される成果イメージ（順不同）

- ・ 雑がみ回収量の増加、可燃ごみに占める紙ごみ比率減少
- ・ 紙ごみによるCO2排出削減効果の定量化
- ・ 地元+広域エリア工場との連携による資源地産地消モデルの構築
- ・ 小中高校生・大学生・高齢者・地域住民のリサイクル意識向上と世代間交流の促進
- ・ 高齢者との交流機会創出による地域コミュニティの活性化、孤立防止
- ・ 障害者の地域参画による共生社会モデルの実証と福祉的就労の場の創出
- ・ 紙リサイクル業界における次世代担い手の掘り起こしと職業理解の深化、学生が地域と繋がる機会創出
- ・ 行政・住民・業界がともに成果を実感できる、参加型の循環型地域社会モデルの形成
- ・ 増加する外国人居住者とのコミュニケーション活性化
- ・ 近隣自治体、関東、更に全国への波及効果 等々

↓ 5%

燃えるごみ量削減

「雑がみさまを探せ！」  
を通じた分別底上げ

↓ 5%

ごみ排出量削減

1人1日当たりの  
ごみ排出量削減

↓ 15%

紙ごみ比率減少

家庭系の燃えるごみに  
占める紙ごみの比率減少

1000+

啓発参加者数

多世代の市民参加による  
コミュニティ活性化

## 8. 本提案への思い

---

これら一連の対策は、県内各市を始めとした「先進的な施策を展開」してきた**各自治体**において、**すでに個別には推進されてきた**要素である。

今回の**啓発モデルづくり**では、それらを有機的に結合し、回収・啓発・再資源化・教育・経済の各分野が一体的に連動する**“リサイクルの輪”**として、**県民に視覚的・体感的に可視化される仕組み**を目指したい。

これにより、県民一人ひとりが**地域循環への参画を一層、理解・実感**でき、**長年積み重ねてきた資源循環の取り組みが、より広く認知**され、成果として花開くことが望まれる。

**SDGs未来都市、ゼロカーボンシティ宣言都市を有する埼玉県**において、紙ごみを中心とした可燃ごみ削減の実践は、温室効果ガス削減や持続可能なまちづくりの成果指標とも直結するものであり、**地方自治体の環境政策の模範事例**として、他自治体に発信されることを期待する。

## 9. 将来的な啓発活動の広域展開への期待

**草加市での「雑がみさまを探せ！」を通じた啓発モデル**は、段階的に埼玉・県南ゾーンへ展開可能なスケラブル（拡張可能性）構造を有する。まず2025～26年度に草加市での啓発活動はじめ、諸課題の整理を実施し、モデル成果を蓄積。

2027年度には、地産地消型の紙リサイクルが成立しやすい環境にあり、予てより草加市と広域連携が進む、東南部地域5市・1町（八潮・越谷・三郷・春日部など）に展開。

2028年度以降は草加市と、まちづくり協議会を有する、県南4市協議会（川口・蕨・戸田）、県内最大人口・さいたま市や、南西部エリア（新座・朝霞・和光・志木など）の自治体と連携拡大し、広報、リサイクル啓発拡大を目指したい。

静脈産業と自治体のクロス連携を加速し、段階的・実証型のモデル普及を通じて、広く埼玉県民の紙リサイクル参画への理解向上に繋がることを望まれる。

尚、2028年以降は別途検討予定の東京、千葉などの隣接地域との広域展開に繋がるモデルも加え、2030年頃には広域環境政策への反映を目指し、「雑がみ資源循環ネットワーク」を念頭に置いた、資源リサイクルの全体最適化も視野に入れたい。

# (参考) 雑がみさまを探せ! (雑がみ回収促進社会実験)

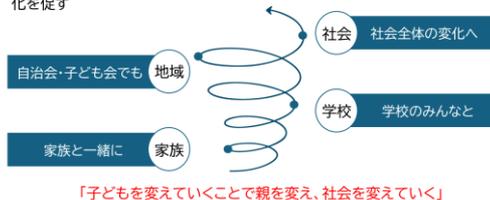
## 目的

雑がみの認知度向上並びに分別・回収の習慣づけを目的とした啓発活動  
 ⇒ 幼少期(学童期)からの分別習慣の効果は大きく、未来にわたって環境配慮行動を行う人材育成につながる



## 目的

子どもを発信源として家族と一緒に取り組むことで、同居する親世代の意識変化を促す



## 効果(自治体・業界)

可燃ごみに捨てられる雑がみ回収促進を進めることで、可燃ごみの削減や新たな製紙原料の確保につながる



「雑がみさまを探せ!」は、いかにして子供たちに家庭での雑がみ分別に誘導するかを、大阪大学大学院経済学研究科・松村真宏教授(仕掛け)と当センターが連携する新たな試み。

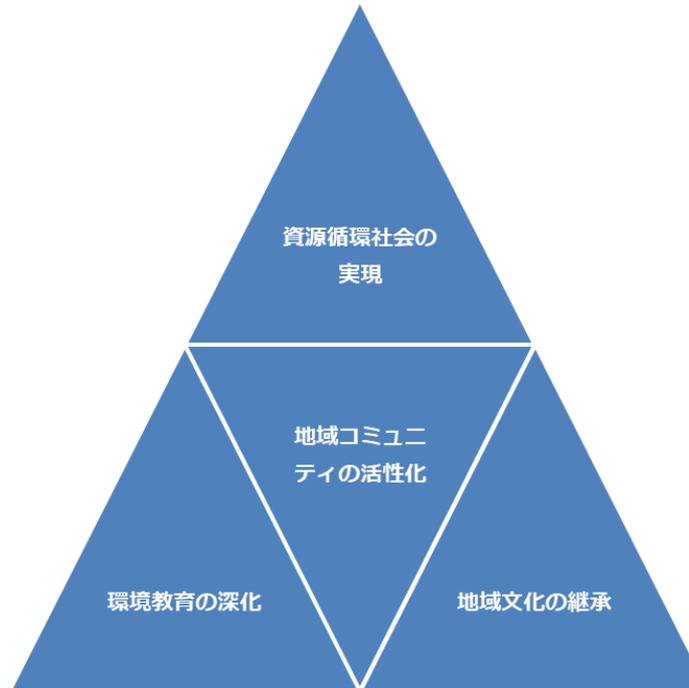
仕掛けのアプローチとは、正論(従来の正攻法)で解決しなかった社会課題を正論は使わずに参加者(小学生)が興味を持ちそうな「仕掛け」を利用することで、結果的に望ましい行動を実現し、その後も親世代を絡めて、家族で継続しやすい仕掛けを狙う。

子供達への「仕掛け」コンセプト  
 紙=カミ(神) ⇒ 家庭の中には、神(紙)様・「雑がみさま」が宿っている。

一般向け

## (参考) 紙リサイクルの重要性

---



紙リサイクル、とりわけ家庭や地域から排出される「雑がみ」は、その性質上、行政・業者・市民の協働によってのみ更なる分別と回収が可能となる分野。

また、資源循環・地域交流・環境教育・福祉・社会包摂といった複数の公共的価値を同時に実現できる特性を持ち、地域循環共生社会の実装モデルとして即効性が期待される領域。

# (参考) 紙リサイクルと SDGs

## SDGs ・ 紙のリサイクルが果たすべき役割

(2022年制定)



### 4 質の高い教育をみんなに

- 紙のリサイクルの役割  
⇒紙の再生品の利用、リサイクルを学べる教育の機会を提供する



### 11 住み続けられるまちづくりを

- 紙のリサイクルの役割  
⇒使用済の紙を分別して再利用を図り、資源の有効活用を図る



### 12 つくる責任 つかう責任

- 紙のリサイクルの役割  
⇒製紙業界のリサイクル可能な商品開発の推進に貢献する  
⇒消費者の持続可能な社会形成への参画意識を醸成する



### 13 気候変動に具体的な対策を

- 紙のリサイクルの役割  
⇒ごみの資源化による脱炭素社会の実現に貢献する



### 15 陸の豊かさも守ろう

- 紙のリサイクルの役割  
⇒森林資源の持続可能な利用に貢献する



### 17 パートナーシップで目標を達成しよう

- 紙のリサイクルの役割  
⇒多様なステークホルダーが連携し、持続可能な社会を実現する

日本の紙リサイクルは国民の分別意識の高さや善意に支えられ、また長年にわたる関係者の努力の結果、資源の有効利用や廃棄物の減量化といった循環型社会の形成にも大切な役割を果たしてきた。

当センターは、消費者や事業者を始めとした紙リサイクルに関わる多様なステークホルダーの皆様とともに、広報啓発、調査研究等の事業を通じた古紙の回収や利用の促進に向けた約半世紀弱の歴史を積み重ねている。

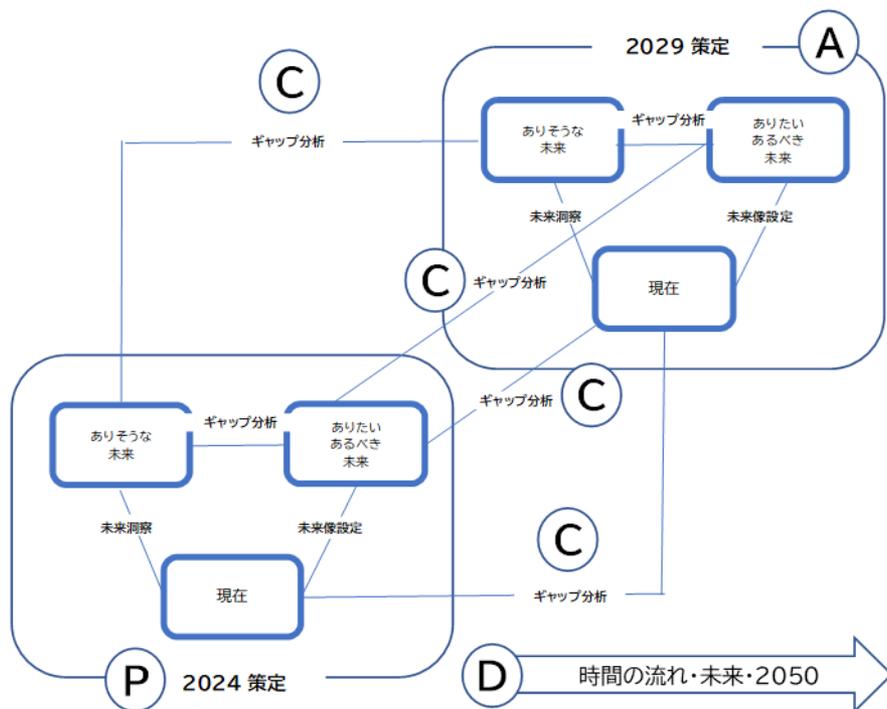
時代背景や社会が変化してきた現在も変わらず、むしろ様々な社会課題が深刻化し、国際社会がSDGs（持続可能な開発目標）の達成など持続可能な社会の実現を目指す中、原点に立ち返ったセンター活動がより一層重要になると考える。

当センターは創立半世紀の節目に向け、活動を支えていただいている皆様とともに、まずは紙リサイクルとSDGsとの関連性を再確認することを2022年にスタートした。今後も多様な立場の方々との共通言語ともいえるSDGsを通じて、小さな連携の積み重ねを大きな力に繋げ、紙リサイクルの更なる発展を目指す。



(古紙センターSDGsレポート)

## (参考) Towards 2030 & Beyond・古紙再生促進センターPDCA



当センターは創立半世紀を迎えたが、その節目に当たり多くの関係者の方々から寄せられた「20」の中長期課題（サステナブルチャレンジ2050・共創共生）をお示しした。本年度から、一連の課題対応に向けての具体的な対策や、新たな試みを開始するに当たり、ロードマップイメージである「Towards 2030 & Beyond」を策定した。

様々な社会課題解決に向けた布石は2030年までがラストチャンスであり、その影響が未来の可能性を左右すると言われる時代にある中で、環境・経済・社会側面の統合的向上や、リサイクルに関わるマルチステークホルダーとのパートナーシップを念頭に置いた事業を通じて、循環型社会形成に関する連携・協働のつなぎ手としての、更なる努力が当センターにも求められている。

今後の課題対応については需給両業界の協働に加えて、これまで以上に広く、紙リサイクルに関わるステークホルダーが、改善できる技術や意識改革を総動員した、統合的なシナジーや全体最適を議論すべき時期にある。



「サステナブルチャレンジ 2050・共創共生」



「Towards 2030 & Beyond」



「創立 50 周年記念誌」

## 当面の啓発活動・検討についてのイメージ「一例」（順不同）

本モデルの定着化に向けた**啓発実験事業** **「雑がみさまを探せ！」**を軸に（2025年～2026年）

- ・ 獨協大学、文教大学（足立キャンパス）啓発ボランティア確保  
「雑がみさまを探せ！」運動支援を通じた、継続的・持続的な啓発組織力強化、  
学生自身への社会課題解決体験のきっかけとする試み。
- ・ 獨協大学、文教大学連携  
新入生への啓発授業機会、学園祭でのブース出展、継続的な啓発掲示
- ・ 獨協大学連携  
環境・国際団体「Deco」との啓発活動連携、ワークショップづくり、  
経済学部・国際環境経済学科藤山ゼミ連携、留学生との連携
- ・ 草加市連携  
SDGsパートナー（仮称）、草加市SDGs推進協議会（仮称）、草加商工会議所、  
草加青年会議所、草加市商店連合事業協同組合、イトーヨーカドー等との連携、市内小学校への  
啓発授業提供、啓発事業協定、地域協定締結大学との連携
- ・ 「雑がみさまを探せ！」回収啓発ボックス寄贈・設置実験（市内の小学校、支所・公民館、図書館、  
リサイクルプラザ等）
- ・ 草加市PJ「まちのヒーローアカデミー」、「SDGsジュニアヒーロー」との連携
- ・ 草加市内のSDGsエコフォーラムin 埼玉、草加南、いずみ高校（環境サイエンス科）連携、フォー  
ラム公開授業提供、WS、その他県内イベント（そうか環境とくらしフェア（11月）、こどもフェス  
タ、国際交流フェスティバル、宿場まつり、朝顔市、その他イベント、伝統行事等）に於ける啓発  
キャンペーン等
- ・ 越谷アルファーズ（B1）、さいたまブロンコス(B3)、T.T.彩たま（T）、ちふれASエルフェン埼玉（WE）  
等との地域貢献連携、試合会場での「雑がみさまを探せ！」啓発キャンペーン

# (参考) 雑がみさまを探せ! (雑がみ回収促進 社会実験)

## キャラクター コラボレーションイメージ

全国各自治体との可燃ごみ削減・雑がみ啓発連携に向けた  
キャラクターコラボレーション検討



古紙再生促進センター  
雑がみ回収促進・社会実験キャラクター(2025年)